



## 第3回日仏サイバーセキュリティ会議

2017年4月24、25、26日（3日間）

### 開催概要

情報科学技術や人工知能技術の進歩、そしてインターネット等の通信機能付きデバイスへの拡大は、大きなビジネスチャンスや研究分野の発展をもたらす一方で、サイバースペース固有のリスクに対する現代社会の脆弱性はますます大きくなっているのが現状です。

政府機関、基幹インフラ、企業、個人に対するサイバー攻撃が近年著しく増大、高度化しています。サイバーセキュリティは今ではプライバシー確保、競争力、国家主権にかかわる重要課題です。早いタイミングで攻撃を食い止めること、信頼を生み出すこと、データを保護すること、危機を管理すること等、いずれも今日では極めて重要なアクション項目です。

その上、サイバースペースに関連する攻撃／脅威は本質的にグローバルな問題なので、上記の重要なアクションを推進するためには、適切な国際協力／連携が必要です。日本とフランスは2014年、この問題に力を合せて取り組むため、2国間政治対話をスタートさせました。

この共通の関心を基に、2015年、在日フランス大使館、日本の国立情報通信研究機構(NICT)、慶應義塾大学、フランスの国立情報学自動制御研究所(inria)、国立科学研究センター(CNRS)による日仏協力が開始しました。この取組みにより、7つの作業部会 (<https://project.inria.fr/FranceJapanCST/> 参照) を立ち上げ、日本とフランスで毎年交互にサイバーセキュリティに関する研究協力／連携のイベントが行われています。

2016年に開催された第2回目のイベントにおける成果をベースに、第3回目のイベントとして2017年4月24日、25日、26日の3日間、東京にて、日仏サイバーセキュリティ会議を開催致します。1日目、2日目は、基調講演、日仏のサイバーセキュリティ戦略や現在の共同作業の成果についての発表、企業セッション、研究者・企業参加の作業部会の会議が行われます。3日目は、オリンピック競技大会の課題、セキュリティとビッグデータ、多分野における認証の問題（理論的立場から産業のニーズに至るまで）、産業制御システムのセキュリティといった、横断的テーマに焦点を当て、新たな課題や分野を発掘することに取り組めます。

本会議では、日仏の専門家、関係者が官民あわせて約80名の参加を予定しており、この分野の日仏の知識や強みなど現状を総括するとともに、両国間の協力を強化することを目標とします。

技術コーディネータ：中尾康二 (NICT), クロード・キルシュネール (inria)

アドバイザー：村井純 (慶應義塾大学), 岡田光弘 (慶應義塾大学), マーク-オリヴィエ・キリヤン (CNRS), エレーヌ・キルシュネール (inria), フォン・ヌグヤン (敬称略)

本イベントへの参加は招待のみとなります（要登録）

登録：<https://goo.gl/forms>

問合せ先：[cyber-meeting-2017@ambafrance-jp.org](mailto:cyber-meeting-2017@ambafrance-jp.org)

イベントの使用言語：英語

主催：在日フランス大使館科学技術部、国立情報通信研究機構(NICT)、フランス国立情報学自動制御研究所(Inria)、慶應義塾大学、フランス国立研究センター(CNRS)

会場：慶應義塾大学 三田キャンパス